

院長コラム

支える側も、ほんの少し「支えられる側」に

誰かを支えている人は、案外、自分が支えられることが苦手です。介護をしている家族。子育てに追われているお母さんやお父さん。医療や介護の現場で働く人。地域で誰かのことを気にかけて、声をかけ続けている人。

「自分より大変な人がいるから」

「私がしっかりしなければ」

「これくらいは自分でできるから」

そうやって頑張っているうちに、自分の疲れには気づかなくなってしまう。在宅医療の現場でも、患者さん本人より先に、ご家族のほうに限界に近づいていることがあります。それでもご家族は、「私は大丈夫です」と言われます。

でも、本当は支える人こそ、支えられる必要があります。

誰かに話を聞いてもらうこと。

温かいものを飲んで、少し座ること。

「今日はしんどい」と言えること。

「ちょっと手伝って」と誰かに頼めること。

それも立派な支援だと思います。

支える人が倒れてしまえば、支えられていた人も困ります。

だから休むことや頼ることは、わがままではありません。

誰かを支え続けるためにも必要なことです。

茶屋町ハレノヒも、そんな場所でありたいと思っています。

何か大きな相談がなくてもいい。

用事がなくてもいい。

少し疲れた日に立ち寄って、花を眺めたり、お茶を飲んだり、誰かと言葉を交わしたりする。

いつも誰かを支えている人が、ほんの少し「支えられる側」になれる。

そんな時間が、この町のあちこちに増えていけばいいなと思っています。

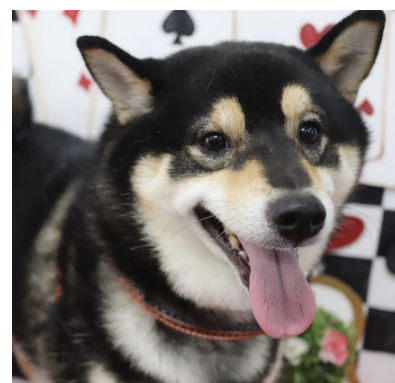


わがや自慢



診療所スタッフ・吉井家のごまちゃん（男の子：2歳半）です。

好きな食べ物はサツマイモ。とても人懐こく、吠えることがないくらいに人が大好きだそうです。



茶屋町ハレノヒ

初の「よるカフェ」を開催しました！

9月19日（土）にゲストシェフさんのご協力で、初めての「よるカフェ」営業をおこないました。

この日は一般社団法人Homieの小嶋さんの呼びかけで、医療的ケアが必要なお子さんとそのご家族に多くお越しいただきました。夜に外出する機会の少ないお母さまたちが、おいしい食事とコーヒーとともにとても楽しそうに過ごしてくださいました。

これからも秋の夜長を楽しく過ごせる「よるカフェ」を開催していきたいと思います。

ツーマントークライブ（亀山有香 × 井上正貴）



9月23日（水）には、水島地区を中心に地域のための常設の居場所を運営している一般社団法人ハルハウスの代表理事・井上正貴さんと亀山院長によるトークライブを開催しました。参加者は30人を超えました。

前半は今の仕事にたどり着くまでのいろいろなことを笑いを交えて話し、後半は参加者からの質問に応えました。

今後も、二人で話す機会を作っていきます。関心のある方の参加をお待ちしています。



ゲストシェフ紹介

茶屋町ハレノヒのゲストシェフを紹介します。

HotsuHotsu（ほつほつ）さんは、岡山市北区表町にお店のあるスイーツのお店です。

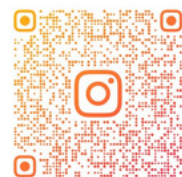
スコーンやカヌレなどの焼き菓子はじめ、季節の果物を使ったかわいいパフェメニューも人気があります。

茶屋町ハレノヒではイートインメニューのほか、テイクアウトできる焼き菓子もたくさん用意してくださっています。

ぜひ一度、おいしいお菓子を食べてくださいね。



※診療所への
お問い合わせは
お控えください※



@HARENOHI_CHAYAMACHI2026

今年は全国的にインフルエンザの流行入りが早まっています。注意してお過ごしください



茶屋町在宅診療所

〒710-1101

倉敷市茶屋町360番地12

 <https://chayamachi-homecare.jp/>

 086-429-0033



インスタも
チェックしてね！



@TORA9_9CHAYAMACHI

